

## 優秀賞

### 一滴を守るすばらしさ

棚倉町立棚倉中学校 三年 八卷やまき 天希あまね

一滴、一滴と、蛇口から流れ落ちていく水。私はその水を、ずっと見つめていた。

水は、蛇口をひねればいつでも出てきてくれる。そんな水は、一体どこからきているのだろうか。ふと疑問に思った私は、水について詳しく調べてみることにした。

私たちが普段使っている水は、もともと川の水や地下水である。雨がたまってできた真水を、浄水場できれいにし、私たちの家に届ける。その後、使われた水は川に流れて海へ行く。水はこのようにして、私たちのもとに来て去っていくことを知った。

そんな水を世界規模で見ると、深刻な状況にある。世界の十人に一人、安全な水が手に入っていない。さらに、私たちが当たり前のように使っている、「透明な水」を知らない子どもたちがいるとい

うのだ。地球は、「水の惑星」といわれているが、水不足に苦しむ将来が迫ってきている。私は、身近で実感することがないためか、縁遠い話題に聞こえていた。しかし、日本も今後、危険水域に突入すると予想されている。私は、この事実には驚愕した。

水を守るためには、具体的にどうすればよいかを、私も含め、多くの人が理解することが必要だと考えた。私は、普段の生活で、水を守るための取り組みをたくさん目にする。学校では、節水の呼びかけを保健委員が行っている。町内では、水に関するポスターが掲示されている。さまざまな取り組みがある中、共通することは、「節水」だ。しかし、「節水」という言葉だけでは、具体的にどんなことをすればよいか考えるのが難しい。水を身近で使う場面は、たくさんある。日々の生活をふり返ると、

料理や洗濯、お風呂などは、水を使ってできることだ。私は、身近な水を守るために、「節水」を具体化した行動を徹底したい。例えば、「歯磨きをしていて、口をすすいでいる間は水を止める」「シャワーは、流すとき以外は止める」などだ。このように、具体的に行動すれば、意識が高まると考える。

また、私たちのもとを去った水は、川に流れて海へ行く。私は、水の使い方だけではなく、水が使われた後のことも考えなければならぬと思う。川や海には、たくさん生き物が住んでいる。そんな生き物のすみかを、私たち人間が奪ってはいけない。また、川や海が汚れると、やがては人間の体にも悪い影響が出てくる。私たちは水を「生活用水」として使っているため、水を絶対に汚さないということではない。しかし、水を汚さないための工夫はできるのではないか。水を汚さないための工夫を具体化すると、「食器などの汚れは、よくふき取ってから洗う」「生ごみは下水道に流さず、三角コーナーを利用する」などがあげられる。これらの行動は、意識すれば誰にでもできることだ。

水は、無限ではない。有限の資源である。私は、水がない世界を想像できなかった。なぜなら、蛇口をひねれば、当たり前のように水が出てくるからだ。しかし、その反対側には、私たちが使っている、「透明な水」を知らない子どもたちがいる。どんなに水が汚くても、その水を飲むことしかできない人たちがいる。ほんとうの「水の惑星」というのは、すべての人々が安全な水を使える地球のことなのだと思う。地球を守るためにも、水を大切にすることが必要だ。

これからは、水があることに感謝して、水を守る具体的な行動を徹底していきたい。また、世界には安全な水が飲めない人たちがいることを忘れず、水を大切にしていきたい。

教科書を閉じた私の耳に入ってきた、「ポタツ」という音。一滴、一滴と、蛇口から流れ落ちてゆく水。すぐに手をのばし、しつかり止めた。